

- 内水面外来魚管理等対策事業 -

後藤悦郎・森山 勝・常盤 保

近年県下の各河川においては、ブラックバス類及びブルーギルの分布拡大が見られ、既存の魚種に対し悪影響を及ぼすことが懸念されている。

そこで、今年度は生息していると言われている県東部の一級河川神戸川において外来魚の生息状況調査を、また県西部の一級河川高津川水系の蟠竜湖においては外来魚の生息状況調査と遊漁人口調査を実施した。さらに県内で最も繁殖していると思われる江川において資源抑制対策のための駆除を実施した。実施した場所を図1に示した。

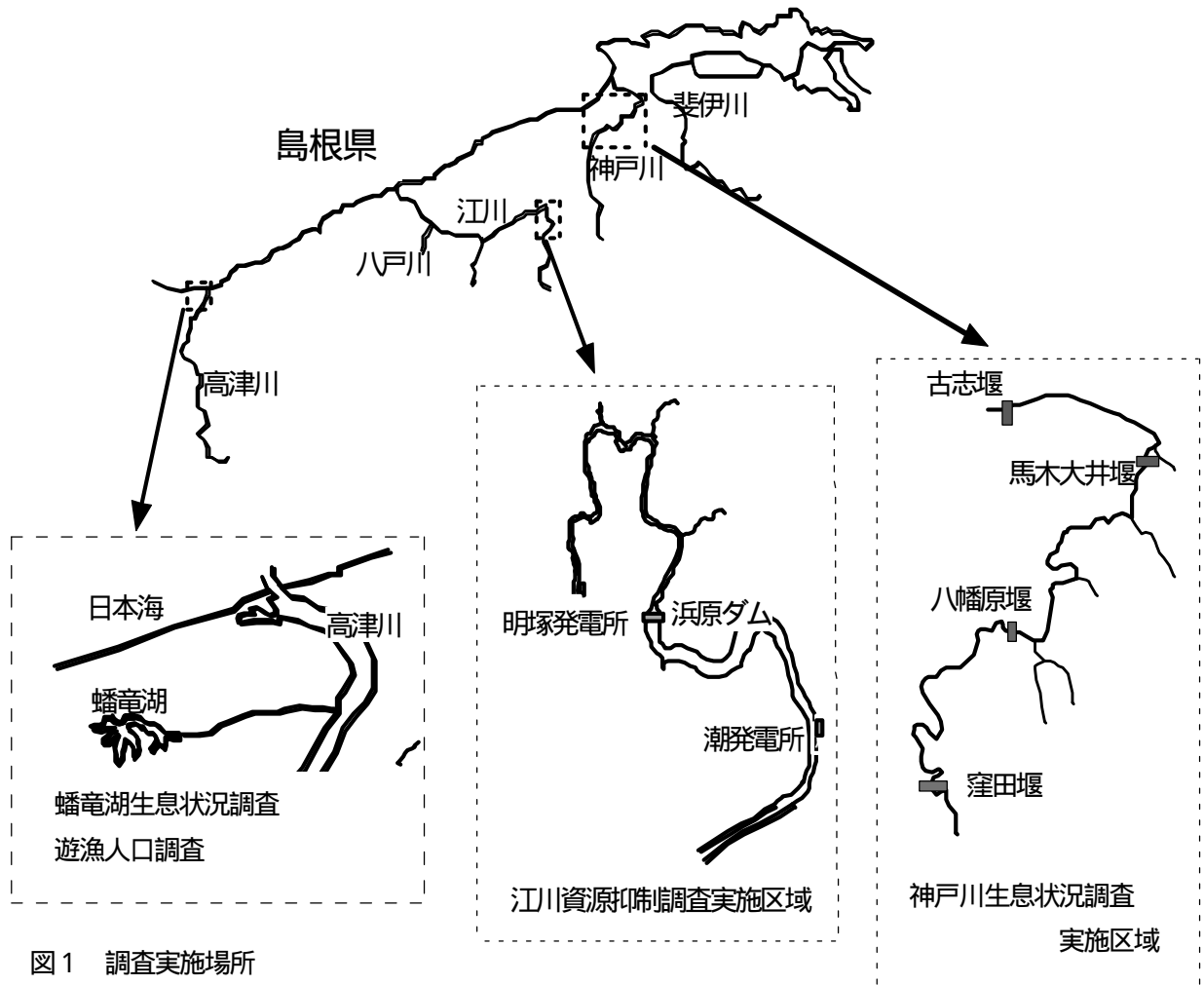


図1 調査実施場所

・生息状況調査

調査河川の概要

1. 神戸川

神戸川は中国山地の島根県東部と広島県との境にある赤名峠付近より源を發する。赤名川と呼称される上流

部は、来島ダムに注いで頓原川と合流した後、ダムを流下し神戸川となる。神戸川は山間部を通り、出雲平野を経て日本海に注ぐ流長 82.4km の県下最大の二級河川である。来島ダムでは流水量が約 7 トン/秒であるが、その約 70% が発電用として江川に送水されるので、来島ダム下流では 2 トン/秒となっている。

2. 蟠竜湖

高津川水系の蟠竜湖は、益田海岸の砂丘端に形成された湖で上の湖と下の湖の 2 つからなる。その海岸線は極めて複雑で変化に富んだ景観をなし、周辺一帯とともに蟠竜湖県立自然公園に指定されている。

蟠竜湖周辺の植生は主に赤松であり、すぐ水面まで迫っていて優美な景観を呈しているのが特徴的である。しかし、最近ではマツクイムシのために立ち枯れしたものが多く、そのうちの一部は倒壊して蟠竜湖中に水没しているものもある。

調査方法

1. 神戸川

調査場所：ブラックバス類が生息していると言われている中流部の馬木大井堰上流から窪田堰上流までの約 15km の区間で採捕を試みた。(図 1)

調査月日：平成 12 年 9 月 28 日

平成 12 年 10 月 3 日

採捕方法：ボート等を使用してで刺網を淵に前日に設置して翌朝引き上げた。

2. 蟠竜湖

調査場所：ブラックバス類が生息していると言われている蟠竜湖全域で採捕を試みた。(図 1)

調査月日：平成 12 年 9 月 26 日～9 月 27 日

平成 12 年 10 月 19 日～10 月 20 日

平成 12 年 11 月 6 日～11 月 7 日

採捕方法：刺網はボートで前日に浅場を中心に設置して翌朝引き上げた。

釣りはボートからルアーにより実施した。

投網はボートで浅場をゆっくり移動しながら魚影を探索し、確認した場合には素早く投じた。

測定項目：採捕した場合は、全長、体長及び体重を測定した。また、胃を取り出してホルマリンで固定し、後日その内容物を検査した。

調査結果

1. 神戸川

調査は神戸川中流部の淵を数箇所実施したがブラックバス類、ブルーギルの採捕は皆無であった。

なお、前年度は上流部の来島ダム湖内において刺網で全長 28～41.5cm、体重 240～350g のオオクチバス 3 尾を採捕している。

2. 蟠竜湖

3 回の調査でオオクチバスのみを 37 尾採捕した。漁法別による採捕内訳は刺網 12 尾、釣り 4 尾、投網 21 尾であった。(表 1 参照)

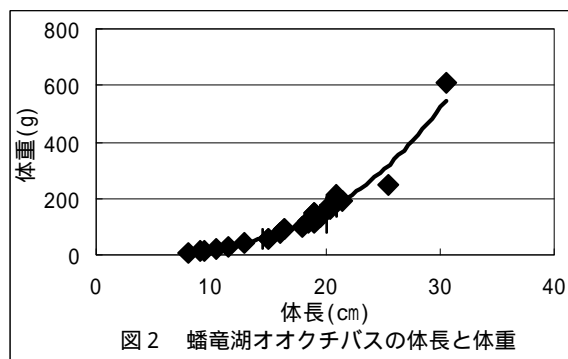
刺網は倒木などが多くてひかかるため設置する場所が制約された。投網の方が効率は良かったが、この方法でも倒木の影にいるブラックバスは採捕できなかった。

なお、コクチバス、ブルーギルの採捕は皆無であった。

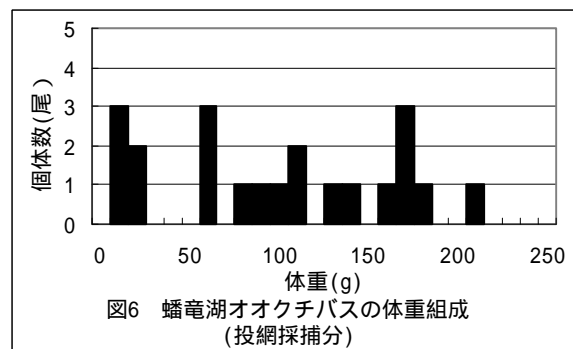
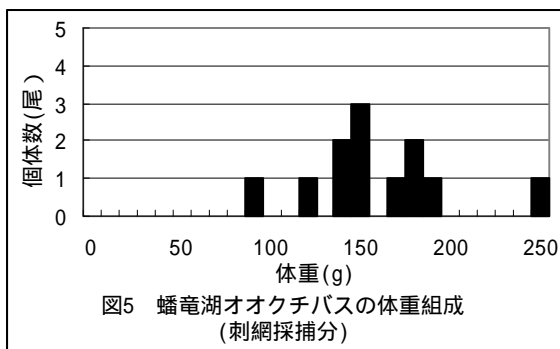
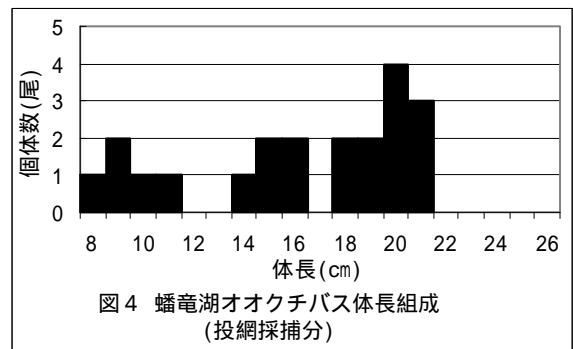
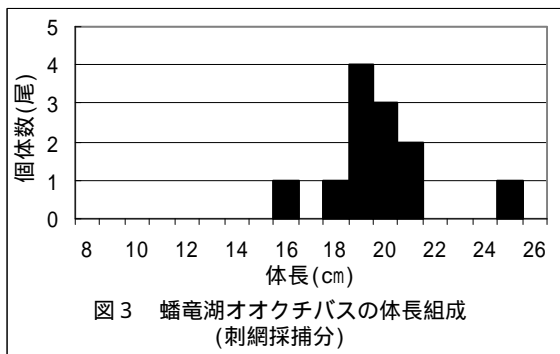
表 1 生息状況調査による採捕結果(オオクチバス)

月日	場所	NO	漁法	全長	体長	体重	胃内容物	性	備考
9月28日	神戸川		刺網						採捕なし
10月3日	神戸川		刺網						採捕なし
9月27日	蟠竜湖	1	刺網	24	19	150			水温28.3
10月19日	蟠竜湖	1	投網	22	18	100	胃内容物は順不同なので個体Noとは一致しない		水温20
		2	投網	20	16.5	90		魚 5尾 2 cm	
		3	釣り	16	13	45		魚 1尾 5 cm	
		4	投網	14	11.5	25		魚 1尾 2 cm	
		5	投網	12	9.5	15			
		6	投網	11	9	15			
		7	投網	10	8	10			
10月20日	蟠竜湖	1	刺網	23.5	19	150			
		2	刺網	24	20	170			
		3	刺網	25.5	20.5	180			
		4	投網	13	10.5	20			
11月6日	蟠竜湖	1	釣り	37.5	30.5	610	胃内容物は順不同なので個体Noとは一致しない		水温17.0 pH7.1
		2	釣り	26	21	180		不明	
		3	釣り	23	19	110		ワーム	
		4	投網	25.5	21	210		不明	
		5	投網	25.5	21	170		魚	
		6	投網	24.5	20	170		魚 7 cm、6 cm、4 cm、1 cm、1 cm	
		7	投網	25	20.5	160		魚 1 cm、1 cm	
		8	投網	24	19.5	140		魚	
		9	投網	20	16	80		不明	
		10	投網	24.5	20	110		陸生昆虫	
		11	投網	25.5	21	180		ヤゴ、魚 1 cm 5尾	
		12	投網	18	15	60		魚	
		13	投網	18	15	60			
		14	投網	25	20.5	170			
		15	投網	23.5	19.5	135			
		16	投網	22	18.5	110			
		17	投網	17.5	14.5	60			
11月7日	蟠竜湖	1	刺網	23	19	140			
		2	刺網	28.5	25.5	250			
		3	刺網	25.5	21.5	190			
		4	刺網	25.5	21	180			
		5	刺網	24.5	20	150			
		6	刺網	23.5	19.5	140			
		7	刺網	20.5	16.5	90			
		8	刺網	22.5	18.5	120			

採捕したオオクチバスの体長と体重の関係を図2に示した。全般的に小型のものが多かった。最大はルアーで採捕されたもので全長37.5cm、体長30.5cm、体重610g、最小は投網で採捕されたもので全長10.0cm、体長8.0cm、体重10g、また平均は全長22.0cm、体長18.1cm、体重131.2gであった。



体長組成を図3(刺網採捕分)と図4(投網採捕分)に、体重組成を図5(刺網採捕分)と図6(投網採捕分)に示した。



体長では刺網採捕分が平均 20.0cm に対して投網採捕分は平均 16.4cm で刺網採捕分の方が大きかった。体長 15cm 以下は刺網では採捕されなかったが、投網では 21 尾中 8 尾で 38% を占めた。

体重では刺網採捕分が平均 159.1g に対して投網採捕分は平均 95.2g で刺網採捕分の方が大きかった。体重 100g 以下は刺網が 12 尾中 1 尾(8%)、投網は 21 尾中 11 尾 (52%) であった。

胃内容物検査では空胃であったものは全採捕魚 37 尾中 23 尾 (空胃率 62%) だった。漁法別に見ると刺網が 12 尾中 12 尾とも空胃であった。次いで投網が 21 尾中 11 尾(空胃率 52%)、釣りが 4 尾中 1 尾(空胃率 25%) の順であった。

胃内容物は魚類が主体で、その他陸生昆虫、ヤゴ、消化が進んで不明なものが観察された。餌となった魚類の大きさは 1~7cm の大きさに、中にはオオクチバス 1 尾で 5 尾の魚類とヤゴを、また他のオオクチバス 1 尾が 5 尾の魚類を食している場合が認められた。(表 2)

表 2 蟠竜湖オオクチバス胃内容物調査結果

月日	9 / 27					月日	10 / 19 ~ 20					月日	11 / 6 ~ 7				
採捕数	1					採捕数	11					採捕数	25				
胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃	胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃	胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃
延べ出現尾数(尾)					1	延べ出現尾数(尾)	3				8	延べ出現尾数(尾)	6	1	1	4	14
延べ出現割合(%)					100	延べ出現割合(%)	27				73	延べ出現割合(%)	24	4	4	16	56

延べ出現尾数：胃内容物中に例えば魚類が認められた外来魚の尾数。

延べ出現割合：胃内容物中に例えば魚類が認められた外来魚の全捕獲数に対する割合。

・遊漁人口調査

調査場所：生息状況調査を行った高津川水系の蟠竜湖で実施した。なお、蟠竜湖で遊漁者がオオクチバスを釣る場合は、陸上では北側の道路沿い（総延長約500m）であり、一部湖上でボートから行われる。

調査内容：蟠竜湖でオオクチバス釣りをを行っている遊漁者の月別人口を調査した。

また、遊漁者1人1日あたりの採捕数量、遊漁者の年齢、県内外別及び陸釣り・船釣り別を調べた。

調査結果：月別遊漁者人口を調べた結果を下表に示した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
遊漁人口	241人	361人	150人	350人	350人	200人	560人	323人
月別割合	9.5%	14.2%	5.9%	13.8%	13.8%	7.9%	22.1%	12.7%

蟠竜湖で遊漁を行った人の合計は約2,500人で、そのうちほとんどの人がルアーによるオオクチバス釣りであり、遊漁者の月平均人数は300名強であった。

遊漁者1人1日の採捕数量は、平均約1尾前後であり、採捕したバスはリリースされていた。

年齢別では、小中学生が多く、全体の約1/2程度を占め、次いで20代~40代の比較的若い年齢層が多く、高齢者はあまりいなかった。また、親子連れの遊漁も目立った。

県内外別では、県外者が1/4、県内市外1/2、県内市内1/4であった。

陸上・湖中別では陸上からのルアー釣りが9割、ボートからのルアー釣りが1割であった。

・資源抑制対策

調査方法

調査場所：県内の漁業権設定河川のうち最もオオクチバス、ブルーギルが生息していると思われる江川の浜原ダム湖内及びダム堤に付随する魚道の登り口(以下魚道下と略す)と出口(以下魚道上と略す)において実施した(図1)。また、補足的に浜原ダムより約5km下流でダムの減水区間内にある粕淵の淵でも調査した。本年度は外来魚の資源抑制を行うのにもっとも効果が高いと思われる産卵期を中心として駆除試験を実施した。

調査月日：平成12年4月25日~26日

平成12年5月12日

平成12年5月25日~26日

平成12年6月8日~9日

平成12年8月29日~30日

平成12年10月30日~31日

採捕方法：刺網はボートで前日に浅場を中心に設置して、翌朝引き上げた。刺網を実施した場所はダム湖内及び粕淵である。

釣りはルアーや活餌としてミミズ、アメリカザリガニ、金魚を使用した。釣りを実施した場所は魚道上、魚道下、粕淵である。

投網はダム湖内ではバス類の稚魚がいそうな場所で実施した。また、魚道下で大型のバス類を採捕することを試みた。

その他産卵床の状況や稚魚の群泳状況を観察することを目的にダム湖内の浅場を潜水した。

測定項目：採捕した場合は、全長、体長及び体重を測定した。産卵時期の雌では卵巣の重量を測定し、一部の卵数を計数した。また、胃を取り出してホルマリンで固定し、後日その内容物を検査した。

調査結果

調査により採捕したブラックバス類はオオクチバスのみでコクチバスは認められなかった。採捕されたオオクチバスの合計 89 尾、またブルーギルは合計 24 尾であった。なお、潜水による産卵床や稚魚の探索ではダム湖内の透明度が悪いため発見には至らなかった。

オオクチバスは時期別では 4~6 月に 70 尾と全体の 8 割弱と大部分を占めた。漁法別では刺網が 83 尾で全体の 93%を占め、釣りが 6 尾(全体の 7%)であった。なお、投網では採れなかった。場所別ではダム湖内が 83 尾で大部分を占め、次いで魚道上の 6 尾であった。なお、魚道下や粕淵では採捕されなかった。(表 3)

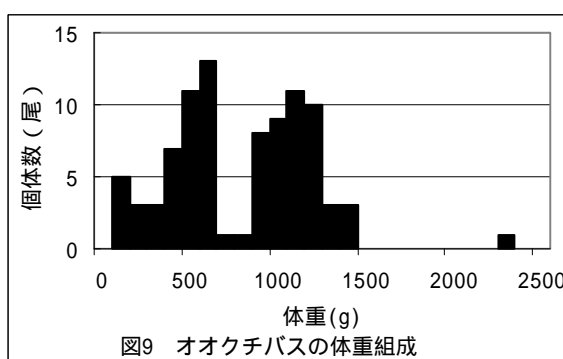
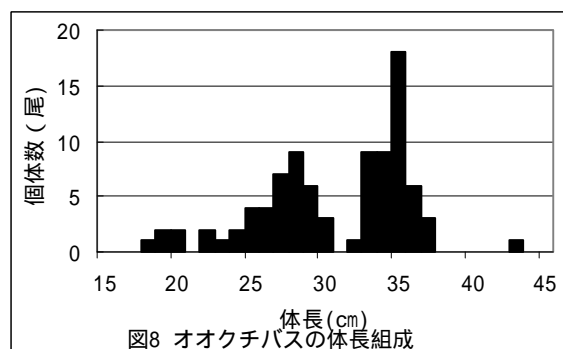
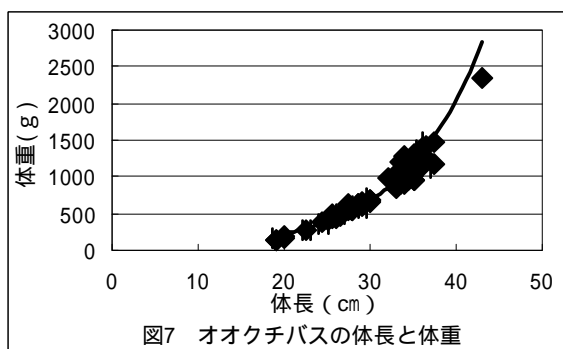
表3 資源抑制対策による採捕結果(オオクチバス)

月日	場所	NO	漁法	全長	体長	体重	胃内容物	性	生殖腺重	卵数	備考	
4月25日	粕淵		釣り								採捕なし	
	魚道下		釣り								採捕なし	
	魚道下		投網								採捕なし	
	ダム湖		投網								採捕なし	
4月26日	粕淵		刺網								採捕なし	
	ダム湖		刺網	35	27.5	640	魚2尾(ハゼ類) 4~5 cm			60	水温17.0	
			2	39	33	1040				110		
			3	42	35	1240				90		
			4	41	34.5	1160				110		
			5	33	28	550				5		
			6	42	35	1320				120		
			7	41	34	1290				150		
			8	43	36	1380				120		
			9	42	35	1150				120		
			10		38.5	32	990				5	
			11		51.5	43	2350	魚1尾6 cm			220	
			12		40.5	35	1000					
			13		31.5	26	450	魚1尾5 cm			30	
			14		43.5	36	1480				130	
			15		41.5	34	1160	魚1尾(ヒガイ)魚2尾5 cmタガメ1尾3 cm				
			16		40.5	33.5	1000	魚1尾(カワムツ)9 cm			100	
		17		31	26	480	エビ1尾4 cm					
4月26日	ダム湖	18	刺網	41	34	1050	木片1ヶ5 mm					
		19		40	33	1050	魚1尾5 cm			100		
		20		43	36	1270				140		
		21		41.5	35	1180	魚1尾					
		22		42	35.5	1100				90		
		23		41	34	1070						
		24		33	27.5	600	不明					
		25		33	27.5	580						
		26		35	29	650						
		27		32	27	490						
	魚道上	1	釣り	42	34.5	960				5		
	魚道下		投網								採捕なし	
5月12日	ダム湖	1	刺網	42	35	1210	魚1尾			130		
		2		43.5	35.5	1240	魚1尾(ドンコ)5 cm			90		
		3		40.5	33	950	魚2尾数 cm			70		
		4		41.5	33.5	1150	魚4尾5 cm			90		
		5		43	35.3	1370				150		
		6		36	29.5	700	魚2尾数 cm			40	73300	
		7		31.5	25.5	450	魚1尾			25		
		8		44	36.5	1420				60	95300	
		9		34	28	550				50		
		10		30.5	25	420	エビ1尾3 cm					
	粕淵		刺網								採捕なし	
	ダム湖		投網								採捕なし	
5月25日	魚道上		釣り								採捕なし	
5月26日	ダム湖	1	刺網	34.5	29	620	魚7 cm				水温22.4	
		2		41.5	33.5	1200						
		3		42	35	1220				60		

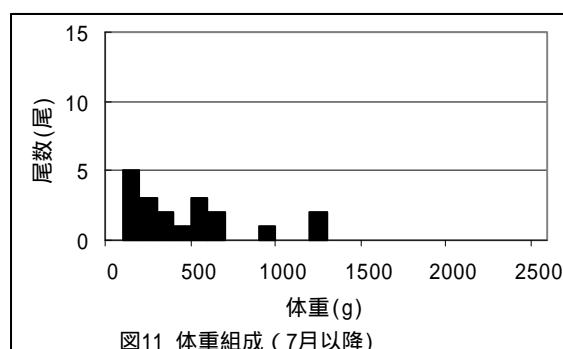
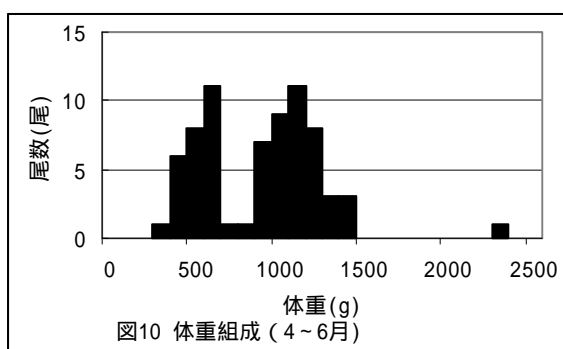
表3 資源抑制対策による採捕結果(オオクチバス)

月日	場所	NO	漁法	全長	体長	体重	胃内容物	性	生殖腺重	卵数	備考
5月26日	ダム湖	4		33.5	28	610			40		
		5		35	29	620					
		6		32	26.5	470					
		7		36	30	670	魚1尾(アユ) 5 cm		40	35400	
		8		41.5	35	1160					
		9		39.5	33	850			40	48800	
		10	刺網	34.5	29	590			30		
		11		35	28.5	600					
		12		41	34.5	1090			40	32200	
		13		35.5	30	650					
		14		44	37.5	1470	魚		90	#####	
		15		42	35	1040	魚数cm		50		
	ダム湖		投網								採捕なし
6月8日	ダム湖		投網								採捕なし
6月9日	ダム湖	1	刺網	42	35	1030					水温20.8
		2		42	35	1200			60		
		3		34	28.5	620					
		4		41.5	34	980	魚		50		
		5		39	33.5	900			30		
		6		43	37	1130			50		
		7		45	37.5	1160					
		8		23.5	27.5	570	魚2尾(フナ) 4 cm、7 cm				
		9		35.5	29.5	580	エビ4尾、魚1尾4 cm		10		
		10		34	28.5	580	魚				
		11		32	27	510	魚		20		
		12		36.5	30	670	魚1尾(フナ) 5 cm				
		13		38.5	24	355					
	魚道上	1	釣り	42	35	950	カワニナ1ヶ、魚2尾5 cm、5 cm		50		
		2		43	36	1140					
		3		41	34	910					
		4		41.5	35	1100					
8月29日	魚道上		釣り								採捕なし
8月30日	ダム湖	1	刺網	30	25.5	500					採捕なし
	粕淵		刺網								採捕なし
10月30日	魚道上	1	釣り	33.5	28.5	600					
10月31日	ダム湖	1	刺網	42	35.5	1240					水温15.5
		2		33.5	28.5	640					
		3		32	28	540	魚数 cm				
		4		32	27.5	540	魚1尾(フナ) 5 cm、不明				
		5		30	26	460					
		6		28.5	25	360	エビ数尾				
		7		28.5	24.5	370	魚1尾				
		8		26.5	22.5	280	魚1尾3 cm、エビ1尾				
		9		26.5	23	270					
		10		26	22	280	魚1尾5 cm				
		11		24	20	160					
		12		23.5	20	190	魚1尾4 cm				
		13		22	18.5	160	魚				
		14		22.5	19	150					
		15		22	19	150					
		16		42	36.5	1250					
		17		41	35	950					

採捕したオオクチバスの体長と体重の関係を図7に示した。また、体長組成を図8に、体重組成を図9に示した。

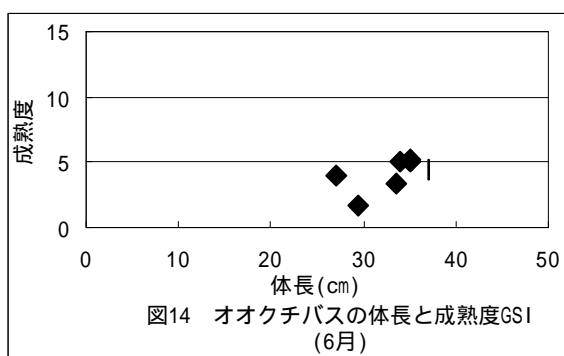
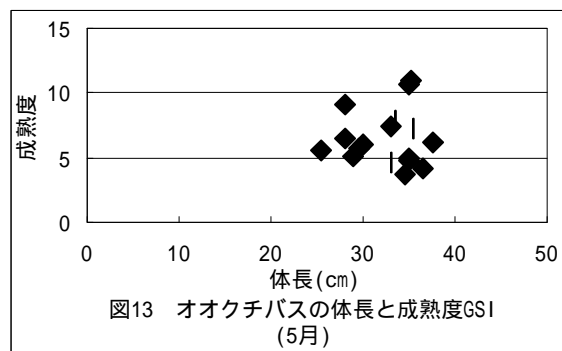
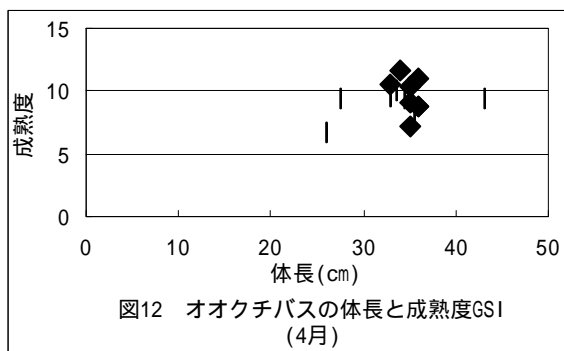


オオクチバスの最大は4月26日にダム湖内の刺網で採捕されたもので、全長51.5cm、体長43.0cm、体重2350g、最少は10月31日にダム湖内の刺網で採捕されたもので、全長22cm、体長18.5cm、体重160gであった。平均の大きさは全長36.8cm、体長30.8cm、体重836.8gであるが、採捕時期を4~6月と7月以降に分けた平均をみると、4~6月が全長38.7cm、体長32.2cm、体重934.0gに対して7月以降では全長29.8cm、体長25.5cm、体重478.4gでずっと小型となる。オオクチバスの産卵期と考えられる4~6月に大型のものが刺網にかかりやすいことは産卵と何らかの関連があるように思われる。(図10、図11)



次に産卵期のオオクチバス雌の卵巣重量を測定した結果を月別に図12、図13、図14に記載した。その成熟度(GSI)を見ると、4月は6.7~11.6(平均9.3)、5月は3.7~11.0(平均6.5)、6月は1.7~5.3(平均4.1)と次第に低下する傾向があった。1部の雌の卵数を計数したところ、平均卵巣重量50gで7万粒弱であった。ま

た、卵巣の重量の最大は220gでその魚体重は2350gであった。



オオクチバスの胃内容物検査では空胃であったものは全採捕魚89尾中54尾(空胃率61%)だった。漁法別に見ると刺網が83尾中48尾(空胃率58%)、釣りが6尾中5尾(空胃率83%)で、釣りの方が空胃率は高かった。

胃内容物の種類は魚類が主体で、アユ、ヒガイ、カワムツ、ハゼ類、フナなどが確認され、その大きさは最大9cm、最小3cm、平均で5cm程度であった。また、オオクチバス1尾で5cmの魚類を食しているものもいた。魚類に次いで多かった餌料種類としては、エビ類が確認された。

表4 オオクチバス胃内容物調査結果

月日	4 / 26				月日	5 / 12				月日	5 / 26						
採捕数	29				採捕数	10				採捕数	15						
胃内容物の の類別	魚類	水生	陸生	不明	空胃	胃内容物の の類別	魚類	水生	陸生	不明	空胃	胃内容物の の類別	魚類	水生	陸生	不明	空胃
延べ出現 尾数(尾)	7	2		2	19	延べ出現 尾数(尾)	6	1		3	延べ出現 尾数(尾) <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>11</td>	4					11
延べ出現 割合(%)	24	7		7	66	延べ出現 割合(%)	60	10		30	延べ出現 割合(%)	27					73

月日	6 / 9				月日	8 / 30				月日	10 / 30 ~ 31						
採捕数	17				採捕数	1				採捕数	18						
胃内容物の の類別	魚類	水生	陸生	不明	空胃	胃内容物の の類別	魚類	水生	陸生	不明	空胃	胃内容物の の類別	魚類	水生	陸生	不明	空胃
延べ出現 尾数(尾)	7	2			10	延べ出現 尾数(尾)					1	延べ出現 尾数(尾)	7	2		1	10
延べ出現 割合(%)	41	12			59	延べ出現 割合(%)					100	延べ出現 割合(%)	39	11		6	56

延べ出現尾数：胃内容物中に例えば魚類が認められた外来魚の尾数。

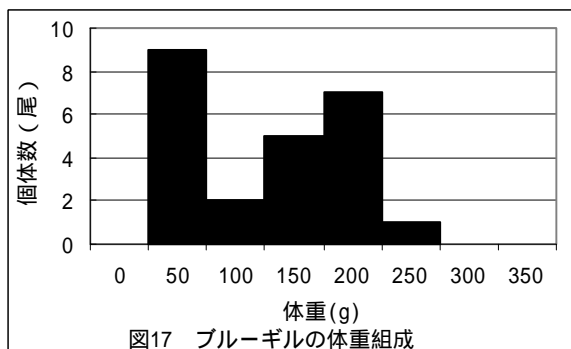
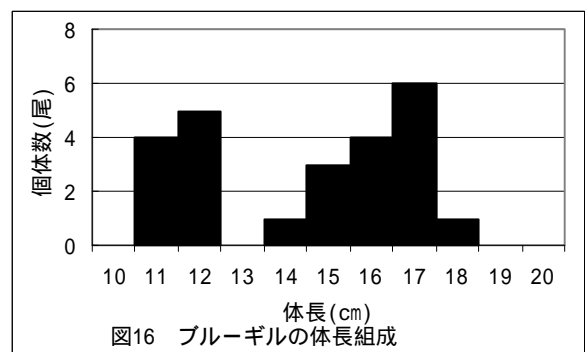
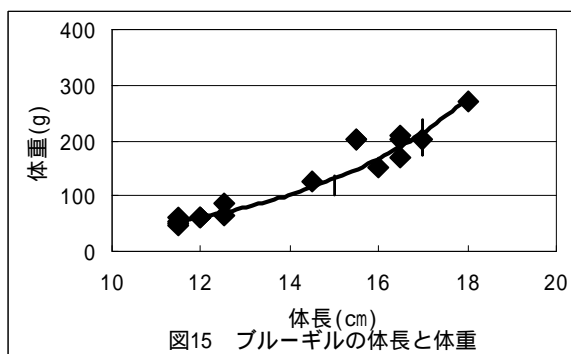
延べ出現割合：胃内容物中に例えば魚類が認められた外来魚の全捕獲数に対する割合。

ブルーギルは時期別では4月～6月に23尾とほとんどが採捕されたが、その他の季節では10月に1尾のみの採捕であった。漁法別では刺網が15尾(全体の63%)で最も多く、次いで釣りが9尾(全体の37%)であった。なお、投網では採捕されなかった。場所別ではダム湖内が15尾(全体の63%)、次いで魚道上の9尾(全体の37%)であった。なお、魚道下や粕淵では採捕されなかった。(表5)

表5 資源抑制対策による採捕結果(ブルーギル)

月日	場所	NO	漁法	全長	体長	体重	胃内容物	性	生殖腺重	卵数	備考
4月26日	ダム湖	1	刺網	22.5	18	270	魚1尾4cm				水温17.0
		2		20.5	16.5	210	陸生昆虫1尾数cm				
5月11日	魚道上	1	釣り	18	14.5	125					
5月12日	ダム湖	1	刺網	21.5	17	220	陸生昆虫数不明				
		2		20.5	16.5	170			15	48000	
		3		21.5	17	220					
		4		20.5	17	190	貝2ヶ1cm、不明		15		
5月25日	魚道上	1	釣り	20.5	16	150	木片、不明、陸生昆虫				水温22.4
		2		14.5	11.5	55	ミミズ2尾、水生昆虫				
		3		14.5	11.5	50	ミミズ3尾				
		4		15.5	12.5	65	不明				
		5		16	12.5	85	不明				
		6		15.5	12	60	ユスリカ、不明				
		7		15	12	60	陸生昆虫、水生昆虫、木片、ユスリカ				
		8		14	11.5	48	不明				
6月9日	ダム湖	1	刺網	21	17	190	ワーム1ヶ、水生昆虫多数				
		2		21	17	190					
		3		21.5	17	200	木片、不明				
		4		20.5	16.5	200					
		5		14.5	12	60	貝、卵				
		6		14.5	11.5	60	木片、水生昆虫				
		7		20	15.5	200	不明、卵				
		8		20	15.5	200	木片、不明、卵				
10月31日	ダム湖	1	刺網	17.5	15	120					水温15.5

採捕したブルーギルの体長と体重の関係を図15に示した。また、体長組成を図16に、体重組成を図17に示した。



ブルーギルでの最大は4月26日にダム湖内の刺網で採捕されたもので、全長22.5cm、体長18.0cm、体重270g、最少は5月25日に魚道上で採捕されたもので、全長14.5cm、体長11.5cm、体重50gであった。平均の大きさは全長18.4cm、体長14.7cm、体重142.0gであった。

漁法別に見ると体長では刺網採捕分が平均15.9cmに対して釣り採捕分は平均12.7cmで刺網採捕分の方が大きかった。体重では刺網採捕分が平均180.0gに対して釣り採捕分は平均77.6gで刺網採捕分の方が倍以上大きかった。

胃内容物検査では空胃であったものは全採捕魚24尾中6尾(空胃率25%)でオオクチバスより空胃の個体が少ない。漁法別に見ると刺網は15尾中5尾(空胃率33%)、釣りは9尾中1尾(空胃率11%)で、特に釣り採捕分の空胃率が低かった。

胃内容物の種類は魚類や昆虫からワームや木片まで様々なものを捕食していた。また、消化が進んで査定不能なものも多かった。

表6 ブルーギル胃内容物調査結果

月日	4 / 26					月日	5 / 11 ~ 12					月日	5 / 25				
採捕数	2					採捕数	5					採捕数	8				
胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃	胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃	胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃
延べ出現尾数(尾)	1		1			延べ出現尾数(尾)			1	1	3	延べ出現尾数(尾)		3	4	6	
延べ出現割合(%)	50		50			延べ出現割合(%)			20	20	60	延べ出現割合(%)		38	50	75	

月日	6 / 9					月日	10 / 31				
採捕数	8					採捕数	1				
胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃	胃内容物の類別	魚類	水生動物	陸生動物	不明	空胃
延べ出現尾数(尾)	2	3		5	2	延べ出現尾数(尾)					1
延べ出現割合(%)	25	38		63	25	延べ出現割合(%)					100

延べ出現尾数：胃内容物中に例えば魚類が認められた外来魚の尾数。

延べ出現割合：胃内容物中に例えば魚類が認められた外来魚の全捕獲数に対する割合。